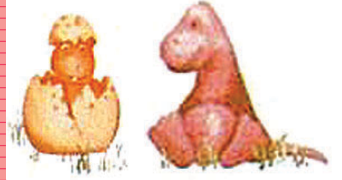




小児病棟を リニューアルしました



プレイルーム



ナースステーション



病室内



病室入口全景



トイレ



洗面所



処置室

●新小児病棟

本年3月28日より、小児病棟が36病棟から65病棟に移転し、新生児室、産科病棟もある6号館の5階にリニューアルオープンしました。病床数

現在本院では、患者様によりよい療養環境が提供できるように、病院7号館の新設をはじめ、各科外来診察室、検査室および病棟（病室）など施設設備の改装工事を順次行っております。その中で、今回は小児専用病棟として改裝いたしました65病棟が完成いたしましたので、ご紹介いたします。

は、個室11床（うち重症観察室2床、準無菌室1床）、総室26床の計37床で、以前の病棟より7床の増設となりました。小児の入院加療は、小児専門病棟で小児専門看護スタッフが対応いたします。また、小児科だけでなく外科系の小児患者様も対象に、入院生活を今まで以上に明るく希望をもつてサポートします。

●内装テーマは「暖かい環境」と「あおい空」

新規小児病棟の内装は、従来の病院のイメージである「白」ではなく、子供

たちの目にも楽しい「暖色系カラー」を取り入れ、また天井にはぐるりとすがすがしい「あおい空」が取り巻いています。入院中、少しでも楽しい生活が送れるように、処置室、洗面所さらにはトイレにも子供たちが喜ぶような工夫がされています。またナースステーションのカウンターは低く設け、窓を大きくすることで、開放的かつ隅々まで見通しがよくつなっています。また、患者様に安全な入院生活を送っていただくための方策の一つとしてフロアにはクッション性能を取り入れています。

●今までの取り組みとこれから

高度で質の高い医療を提供するためには、病院の設備や環境が整っていることが重要な条件のひとつです。本院では、よりよい療養環境を保つために小学生を対象とする院内学級（高槻市立高槻小学校すみれ教室）を常設しており、中学生には訪問学習（大阪府立刀根山養護学校）もあります。病棟リニューアルに伴い、我々も新たな気持ちで、入院中のお子様と共にご家族の方にも安心して入院生活を送っていただけるよう精一杯のサポートを行います。ご満足いただける病棟作りを心がけてまいりますので、何かお気づきの点がございましたら、遠慮なくスタッフにお声かけ下さい。

全身麻酔の安全性について

第7回
平成19年
1月20日

麻酔科

田中源重

市民公開講座 要約

ております。本当に自分は大丈夫かと思われるのは当然のことです。

手術室が一般病棟とともにも異なるのは、特殊な空調設備によって常に陽圧に維持されていることとクリーン度が非常に高いという点です。すなわち病院内でもっともきれいであり、無菌状態で手術が行われる場所です。それゆえにすべてをオーブンにすることは不可能です。今回の公開講座では手術室と最近の全身麻酔の方法を説明しました。

また、全身麻酔の危険性については日本麻酔科学会が行った4年間、350万症例の分析の結果を紹介しました。本院では手術件数が年々増加し、麻酔科管理症例も年間4,000例を超えております。さらに、術式や手術器具の進歩により重症症例や高齢者の症例が増加しております。われわれ麻酔科医にとつて4,000例の件数が大事ではなく、1例1例の患者様が重要であり、それぞれの症例に対してより慎重かつ安全な麻酔管理が必要であると考えております。

次回平成19年度第1回は、4月21日に大阪医科大学臨床第1講堂にて「ドライアイについて」です。多数のご参加をお待ちしております。

輸血室が「I&A認証施設」として認定証交付を受けました。

本院は、平成19年1月30日に日本輸血細胞治療学会から「I&A認証施設」として認定証交付を受けました。I&Aとは同学会が第三者の中立的な立場から、医療機関の輸血療法体制を視察・点検（Inspection）し、認証（Accreditation）するという客観的なチェックシステムです。本院では輸血室が「一括して輸血に関する検査と輸血用血液の保管管理を24時間体制で実施しています。また診療各部門の医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事課職員から編成される輸血療法委員会がほぼ毎月開催され、院内で実施される輸血がより安全かつ適正に実施されるよう熱心に討議されています。これらの取り組みをI&A委員会の認定視察員に視察・点検していただいた結果、本院は国内でもまだ数少ない認証施設としてお墨付きをいただいたわけです。今後も輸血室と輸血療法委員会は日々の輸血医学の進歩変遷を的確に捉えて、輸血医療の安全性確保と適正輸血の推進に努めて参りたいと考えます。

睡眠時無呼吸症候群に不可欠な終夜
睡眠ポリグラフ検査体制を整えました

いびきは単に個性のひとつとみなされてきました。しかし近年、いびきをかく人たちの中に、睡眠時無呼吸症候群（以下SAS）という深刻な病気の方が大勢おられることがわかってきました。

SASは、睡眠中に呼吸が頻回に止まり、睡眠の質が著しく低下する病気です。健康の要ともいえる睡眠の質の低下は、脳血管障害、心疾患など循環器系を中心にさまざまな生活習慣病に深く関係することがわかっています。

SASを正確に診断するには、終夜睡眠ポリグラフ（以下PSG）が不可欠です。睡眠中の呼吸運動、動脈血酸素飽和度、脳波、心電図などの生理学的な指標を、入院下に一晩中記録し、睡眠を客観的に評価するのがPSG検査です。何やら大変そうですが、痛みを伴う検査ではありませんのでご心配は要りません。この検査で一定以上に重症であると診断された方は、適切な治療が必要となります。

本院では、今年2月1日から呼吸器内科にPSG検査を実施する体制を整えました。SASをご心配の方は、先ず今お掛かりの先生にご相談の上、呼吸器内科のSAS専門外来（毎週金曜日）に受診して下さい。PSGによる正確な診断を行い、院内各科とも連携の上、患者様に最適な治療を提供いたします。

本年度、学校法人大阪医科大学はその前身の設立から80年を迎えます。その間、私どもは教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践を通して、人類の福祉と文化の発展に寄与する人材を育成するという理念の下、日々の活動の歴史を刻んできました。

また、先般の私立学校法の改正では「国際的視野に立つ」という言葉に「いかなる地域にも密着できる」という意味を込めました。また、人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成するた

めにも、私たちは地域社会への貢献を実践しなければなりません。折しも、高槻市では中心市街地活性化による新しい街づくりを目指した取り組みが始まろうとしています。私たちはその中心市街地に位置し、教育・研究・診療を通して新しい街づくりの一翼を担い、以前にも増して地域に貢献しなければならぬと考えております。

そこで、80年という記念すべき節目を迎えるにあたり、私たちを支えて頂いた地域の皆様への感謝を新たに、過去の活動を省み、これからの在り方を改めて考える包括的な機会と致したいと存じます。

「創立80周年」を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

平成19年4月 総合企画部

シリーズ 治療の最前線

耳鼻咽喉科 科長 竹中 洋

スギ花粉症

スギ花粉症に悩まされる人は国民の20%以上に上ると考えられています。10歳代では発症予備軍を含めて50%程度のスギ花粉症患者がいると推測されています。将にスギ花粉症は現在の国民病です。

ところで、今年のスギ花粉飛散数は極めて少量でしたので、花粉症の人には過ごしやすい春だ

つたのではないでしょう。か。一般にスギ花粉症では症状を起こす花粉量が人によって異なること、したがって重症度もバラツキがあることが経験的に知られています。言い換えれば花粉飛散量が少なくても重症になる患者様は必ず一定量おられることとなります。貴方はどうでしたか？

がほとんどなかった貴方、もう治ったと考えていますか？ 今年の夏の日照時間が長く、雨が少なければ、来年は大量飛散になります。少量飛散年の症状で答えを出すのは危険です。今年の症状が昨年と全く同じだった貴方、貴方はごく少量のスギアレルゲンで症状が誘発されるグループに入ります。

来年以降も要注意です。スギ花粉のアレルゲンは雄花から放出される花粉表面にある糖タンパク分解酵素です。これから飛び出すヒノキ科花粉もスギ花粉と交差性（極めて近い関係がある）と考えられています。ヒノキ科花粉飛散量には地域によって違いがありますので、5月の連休直前まで注意が必要です。

スギ花粉症治療には、薬物治療、免疫療法、手術の3つがあります。薬物治療を受ける場合は、症状を詳しくお伝えください。くしゃみ・鼻水と鼻詰まりに効く薬は違いますが、今や症状に合わせて薬を選ぶ時代です。免疫療法は確かに有効ですが、すべての医療機関でできる訳ではありません。方法もいろいろありますので、一度耳鼻咽喉科アレルギー外来にお尋ねください。手術も同じです。

最後に私たちの調査では、スギ花粉症の80%がハウスダストアレルギイやイネ科花粉症も合わせもっています。初夏や夏

夏の終わりに症状がある場合、朝起床時にくしゃみや鼻水が発作的にでる場合はスギ以外のアレルギーの可能性が大いなので、ぜひ検査を受けてください。

〈本院耳鼻咽喉科の花粉情報〉
<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ot02/kahun/index.html>

情

報

コ

一

ナ

一

ご好評、患者さま相談室

本年2月より本格的に運用を開始しました「患者さま相談室」は順調に利用され、患者様からも概ね好評を得ております。相談室は5室あり、「看護」「薬剤」「栄養」「福祉」「医事」等の相談に応じることができるようになっております。

「相談室」が本院に来られる患者様から、本当の意味で「相談に来て良かった」と言っていたげのように、各部署が今後も努力を重ねていく所存です。

本院にとって、患者様と病院職員を結ぶ大事なコーナーになると思いますので、患者様のご意見を聞きながら改善に取り組んでいきたいと考えています。

- ①受付窓口 病院医療相談部
②受付時間 平日 8:30～16:00
土曜 8:30～12:00
③電話番号 代表072-683-1221（内線）2308

なお、相談内容については受付窓口にてお伺いし、担当部署に連絡をいたします（予約制）。

「診療科リーフレット」を作成

この度、来院される患者様により各診療科の診療内容の特長についてご理解していただけるように下記のような「診療科リーフレット」を作成いたしました。病院正面玄関に入っていただき右手脳神経外科外来の隣に並べております。また、作成に当たっては責任医師が患者様の視点に立って、より分かりやすい表現で十分にご理解していただけるものになっていると確信しております。ご一読いただき、受診の際に参考にいただければと思っています。

平成19年度
市民公開講座 ご案内

第1回	4月21日（土）ドライアイ（乾き目）と角膜（くろめ）の病気について	眼科
第2回	5月19日（土）人間ドックについて	内科Ⅲ
第3回	6月16日（土）中高年女性のヘルスケア	産婦人科
第4回	9月15日（土）こどもの鼻の病気	耳鼻咽喉科
第5回	11月17日（土）大動脈瘤の話：突然死を予防する手術	胸部外科
第6回	12月15日（土）血液の癌【白血病について】	臨床検査医学
第7回	H20年 1月19日（土）乳癌の乳房温存療法について	放射線科

●開催場所
大阪医科大学 臨床第1講堂